



1月15日はふるさと鮎江の日、 市制60周年を1,000人が祝う

昭和30年1月15日、今立郡・丹生郡の2町5村が合併し鮎江市が誕生しました。それから60年の年月が経過し、鮎江市は還暦を迎えました。

この日、文化センターで記念式典を開催。式典には、西川知事をはじめ、山崎正昭参議院議長ら県選出の国会議員や県内各市町の首長らが出席。市の招待者、関係者を含めおよそ1,000人が大きな節目を祝いました。



市政功労者、市民文化賞、市制60周年記念功労者、教育文化功労、スポーツ栄光賞の受賞者を表彰



やんしき保存協会の皆さんか、市の無形民俗文化財である「やんしき踊り」を披露



鮎江市民憲章を先導する北中山小学校4年生の児童



フルート奏者の高橋佳奈子さん【写真左】とマリンバ奏者の平岡愛子さんによる演奏



ふるさと鮎江の 伝承料理と創作料理、300人が堪能

1月15日を『ふるさと鮎江の日』と制定した平成22年1月。市の誕生日を鮎江に伝わる伝承料理でお祝いしようと「ふるさと鮎江の料理を楽しむ会」は始まりました。

この日は、普段から地産地消をはじめ食と農の活動に取り組む9つの団体の皆さんが合計25品の料理を準備。参加したおよそ300人の市民らが、料理を味わいながら市の誕生日を祝いました。

大人気の鮎江産ジビエ

毎年のように料理には工夫が凝らされ、新たな創作料理も加わっています。今回は下新庄町で捕獲された猪の肉でつくったハムが新たに登場。サラダ仕立てにしてあることで、食べやすくお代わりを求める人で行列ができていました。



まちの話題

1
11

676人が大人の仲間入り

文化センターで成人式

昨年9月に新成人有志24人が実行委員会を立ち上げ、「思い出に残る成人式にしたい」と、恩師のビデオレターや記念冊子の作成などさまざまな企画を考えてきました。式典では、実行委員長の笹田竜生さん（本町2丁目）が代表してあいさつ。そして、実行委員の加藤崇晃さん（下野田町）、井上有泉さん（西袋町）、佐々木唯さん（片山町）が誓いの言葉を述べました。牧野市長は「皆さんのが若い力で、これからふるさと鯖江を一緒につくっていきましょう」と新成人にお祝いの言葉を送りました。



(写真左から) 誓いの言葉を述べる加藤さん、井上さん、佐々木さん



市役所で納付手続きを行う牧野市長

県内自治体初

1
14

軽自動税、水道料金がクレカでOK!

クレジットカード窓口収納サービスがスタート

市役所1階にある市税等収納窓口と収納課、2階の上水道課では、軽自動車税と水道料金をクレジットカードで納付することができるようになりました。これは県内の自治体で初めてとなる取り組みで、国内で流通している全てのクレジットカードが利用できます。この日は、サービス開始にあたってPRセレモニーが開催され、牧野市長が納付手続きを体験。「キャッシュレス社会に対応した新たな取り組み、ぜひ多くの人に利用してほしい。今後は税目の追加なども検討していきたい」と話しました。

ハロー トドラー！ vol.③ 眼鏡・部品研磨「株式会社すごうで」 ～技術力と納期で勝負！～



会社にお邪魔すると、12台も並ぶバレル（眼鏡を研磨する樽型の機械）にまずビックリ。「独立すると決め中途半端なことはやりたくない」とのこと。

眼鏡の研磨は、まずバフ台（回転するフェルト地）を使い手作業で表面の傷などを落とした後、バレルに入れてツヤを出す工程。ここで難しいのは、変形または磨き過ぎないよう傷を落とす加減で、職人の腕の見せ所です。

「技術力そして“納期厳守”が当社のウリ」と語る社長の出勤時間は毎朝5時半。他の社員が来る前にバフ台での作業を黙々とこなしバレルに入れる下準備をし、「納期に遅れそうなときは一人夜中まで作業をしている」と話す三田村社長。

疲れないのかと尋ねると、「メガネ職人になる前はさまざまな職業を経験し、漁師をしていました」とのこと。朝早いのや重労働が平気なのもこの時の経験のおかげ。いろいろな仕事での苦労を通して少々のことでは挫けない強さが身に付いたそうです。

「独立したので全てが自分の責任。大変だけど、働いた分売り上げにつながるのでやりがいもある。今のところ順調に受注があり、今後はもっと機械、人材を増やしていきたい」と力強く語ってくれました。

株式会社すごうで 有定町1丁目6-16 ☎42-8446

※トドラーとはヨチヨチ歩く幼児のこと

このコーナーでは、市内で新たに起業した事業所を紹介。皆さんまだ歩き始めたばかりですが、今後しっかりした足取りで歩むことを目指し、日々奮闘中です。



作業場にずらりと並べられたバレル